

知的障害特別支援学校における自立活動指導のアセスメントに関する研究(3)

地域支援における「実態把握チェックリスト」及び「解説書」(改訂版)の活用とその効果について

○清水 謙二 山本 春奈
(大阪府立佐野支援学校)

KEY WORDS: 特別支援学校のセンター的機能 自立活動 アセスメント

1. はじめに

「特別支援教育の在り方に関する特別委員会の報告(2014.7.23)」では、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムを構築するためには、小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要であることが述べられている。これらの「連続性のある多様な学びの場」を提供するためには、特別支援学校と地域の小・中学校との連携が重要であり、その連携を強化するためのツールが必要であると考えられる。

研究(1)(2)では、自立活動の目標や指導内容・方法を設定するためのアセスメントツールとして活用している「自立活動における実態把握のためのチェックリスト(以下チェックリスト)」及び「チェックリスト解説書(以下解説書)」について、その観点の妥当性を検討し、より適切に実態把握ができるよう、「チェックリスト」の観点及び「解説書」の改訂を行った。

そこで研究(3)では、改訂した「チェックリスト」及び「解説書」を、地域の小学校特別支援学級における自立活動の授業改善に向けた取組で活用し、その効果について検証することを目的とする。

2. 方法

(1)アセスメントツールを活用した地域支援の概要

本校は、特別支援学校におけるセンター的機能の役割を担うため、地域の教育委員会と連携して地域支援を展開している。その中でA市の小学校特別支援学級(対象児童:24名)との協働研究(月1回の巡回相談による授業改善・指導力向上のための支援)において、「チェックリスト」及び「解説書」をどのように活用し、取組を進めたかについて整理した結果をTable 1に示した。

(2)「チェックリスト・解説書」に関するアンケートの実施

特別支援学級担任(7名)を対象に、「チェックリスト」が実態把握、指導目標、指導内容・方法、学習指導案にどの程度参考になったかについて、また「解説書」がどの程度参考になったかについてアンケートを実施し、その結果をFig.1に示した。

3. 結果

Table 1より、支援学級における自立活動の授業において「チェックリスト」を活用することで、個人の目標や自立活動の区分の設定、指導内容・方法の検討、グルーピングの再構築、グループの授業計画や評価方法の検討など、授業改善に向けた取組が推進されたことが示された。

Fig1より、「チェックリスト」及び「解説書」について、全ての項目において「大いに参考になった」「少し参考になった」という肯定的な意見が100%であった。また、記述からも「個人の目標設定をすることで、支援の視点が明確になった」等の肯定的な意見が多くみられた。さらに「チェックリスト」について肯定的な意見をより詳細に見ていくと、「大いに参考になった」という最も肯定的な意見が、

「実態把握」「指導目標」では86%、「指導内容・方法」「学習指導案」では、それぞれ43%、29%であった。

Table 1 地域支援でアセスメントツールを活用した取組の内容

時期	研究協議の内容						授業見学 (ビデオ含む)
	チェックリスト・解説書の活用					その他	
	実態把握	自立活動の区分	個人の目標設定	指導内容・方法	グルーピング	評価の規準	指導案・指導計画
第1回(7-8月)	○	○	◎	○	○		○
第2回(10月)		○	◎	○	○		○
第3回(11月)		○	◎	◎	◎(再検討)		○
第4回(12月)		○	◎	◎	○		◎
第5回(1月)			◎	◎		◎	○
第6回(2月)			◎	◎		◎	◎
第7回(3月)			◎	◎		◎	○

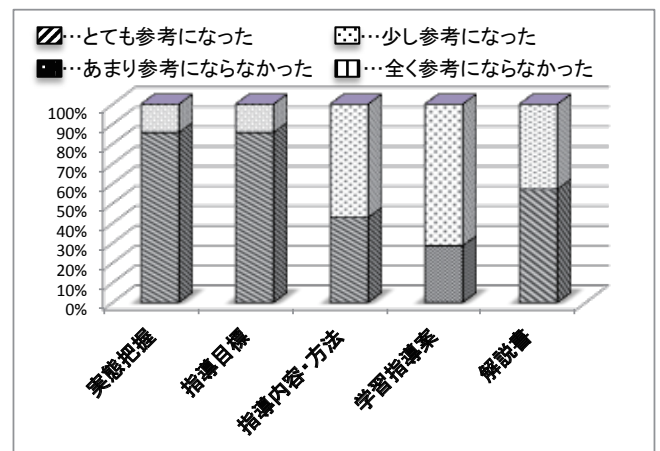


Fig.1 チェックリスト・解説書の効果についてのアンケート結果

4. 考察

Table 1、Fig.1から、本校で活用している「チェックリスト」及び「解説書」は、地域の小学校の自立活動指導においても、有効なアセスメントツールとして活用できることが明らかになった。特に「実態把握」や「指導目標」の設定については、非常に有効なツールとなり得ることが示唆された。一方、「指導内容・方法」や「学習指導案の作成」では、最も肯定的な意見の割合が少ないという結果が示されたが、このことは、「チェックリスト」自体がアセスメント(実態把握)のためのツールであることから、「指導内容・方法」や「学習指導案の作成」については、直接「チェックリスト」から得られる情報が少ないことが要因であると推察される。「解説書」にも一部「指導方法例」を掲載しているが、こうした「指導方法例」の情報をより充実させていくことが必要であると考えられる。

以上のことから、本校の「チェックリスト」及び「解説書」を地域支援においても積極的に活用することで、特別支援学校と地域の小・中学校が同じ視点で自立活動の指導を行うことができ、このことが特別支援学級と特別支援学校における「連続性のある多様な学びの場」を提供していくことに繋がっていくと考えられる。

今後は、A市の小学校特別支援学級で展開したような効果的な地域支援を他市町でも推進し、「チェックリスト」及び「解説書」の活用範囲を広げることが課題である。

(SHIMIZU Kenji YAMAMOTO Haruna)